

新聞の特性を活かし、情報の取捨選択と表現力を高めるN I Eの取り組み

指定校1年次 松本市立会田中学校 白井 奈帆

(1) 本年度のN I E活動の概要

本年度、本校の研究テーマは「自らに問い 共に考え 決めて 動く 生徒の育成」である。国語科では、重点活動でもある「『対話』と『協働』」を大切に、授業を行った。授業では、6社の新聞を読み比べることで、「同じ事象でも見出しや写真によって印象が変わる」という新聞の特性を、自分たちの新聞づくりに具体的に活かす工夫（5W1Hの徹底や目を引く見出しなど）をグループで見いだした。そして、それをもとにしながら、それぞれが夏休み中に実施した職場体験のことを新聞にした。

この実践を通して、完成した新聞を職場体験先に送付するという設定により、複数紙の比較読解を通じて、見出しの言葉選びや写真の効果、5W1Hの重要性に気づき、それを自分の新聞づくりに具体的に活かそうとする姿勢や「正確に伝えたい」「失礼のないように丁寧に書きたい」という高い意欲を持って取り組む姿が見られた。

一方で、新聞で表現するにあたり、内容という面で課題が残ったため、単元展開の中に内容を工夫できる手立てを考えていくことが大切だと感じた。

(2) 本年度のN I E活動をはじめる前の状況

本校は、生徒数61人全学年単級の小規模校である。生徒の多くは、新聞を読む習慣がないのが現状である。

授業学級である2年生は、アイデアを出すことが得意で、国語の学習ではグループ活動にも意欲的に取り組み、友達の意見にしっかり耳を傾けながら学びを深めることができる。

一方で、自分の考えや思いを言葉にして表現することや、得た情報を整理してまとめることに難しさが見られるため、今後は情報を取捨選択したり、整理したりする力や表現する力を伸ばしていくことが課題である。

(3) N I E活動の狙い（育てたい力）

◎情報の取捨選択と表現力を高める

- ・新聞の構成（見出し、リード文、本文、写真、キャプションなど）や特徴を理解し、自分の新聞製作に生かすための具体的なイメージを持てるようにする。
- ・膨大な情報の中から自分が取捨選択・整理し、他者に伝える力を養う。
- ・「正確に伝えたい」「思いを丁寧に届けたい」という主体的な意欲を育む。

(4) 公開授業以外のN I Eの取り組みの状況

【新聞コーナーの設置】

毎朝、いただいた6社の新聞を昇降口前のホールに掲示し、過去の新聞についても同じ新聞ごとにまとめ、ホールの一角に保管した。生徒の中には、国語の教科書に出ていた作品の著者がある新聞に載っていると知り、過去の新聞を読みあさる姿があった。



(5) 公開授業などの活動内容

日 時	令和7年9月2日(火) 3校時
単元名	情報を整理して伝えよう「記者魂に火をつけろ!～職業体験新聞を作ろう～」
授業学級	2年1組23名(男子14名 女子9名 計23名)
授業者	国語科 白井 奈帆

1 単元の目標

- (1)メディアの一つである新聞の構成や特徴を理解することができる。(知識及び技能(1)エ)
- (2)読み手に伝えたい内容を考え、情報を取捨選択しながら体験や気づきを整理して、文章にまとめることができる。(思考力、判断力、表現力等(B書くこと(1)エ))
- (3)友との交流や推敲を重ねて、自分の思いを相手に伝えようと工夫を重ねている。(学びに向かう力、人間性等)

2 評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に取り組む態度
抽象的な概念を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 (1)エ)	「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ)	進んで学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、今までの学習を生かして文章を書こうとしている。(学年の目標(3))

3 単元計画(総合的な学習との関連があるため、関係する教科を右に入れてある。)

時数	学習活動	評価する内容と方法	教科
事前活動	・職業講話 ・マナー講座 ・履歴書作成 ・体験先への電話		総合
	・敬語の学習(国語科) ・職業調べ、職業ガイド作り		国語
1 【全体】 【グループ】	職業体験学習に向けて「取材」のノウハウを学ぶ。 ・信濃毎日新聞社から講師を派遣し、「取材」についてのポイントを聞き、自分たちが職業体験学習で聞きたいことについて取材シートにまとめる。	・質問だけで終わらないよう、問い返しを考えさせ、取材が充実したものになるようにする。	国語
2 【個人】	職業体験学習で「取材」をする。 ・聞きたいことを3つほどに絞り、体験の中で取材をする。		総合
3 【グループ】 【全体】 【個人】	新聞の特徴を知る ・新聞の構成(見出し・リード文・本文・写真・キャプションなど)を学ぶ。 ・新聞社ごとの違いや共通点を見つけ、自分たちの新聞作成に活用できる工夫点を学ぶ。	・新聞社ごとの読み比べを行い、新聞社ごとの違いや共通点を発見する。 ・特徴や工夫点を探し、自分の新聞づくりに活かすポイントを決める。	国語 本時

4 【個人】	下書きを書く（構成・本文） <ul style="list-style-type: none"> 自分の職業体験のメモをもとに、書くテーマや構成を決める。 記事本文の下書きを作成する。 見出しやリード文も考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み手を意識しながら、自分の体験を筋道立てて文章にまとめる力をつける。 情報を取捨選択して魅力的な新聞記事なるよう整理する。 シンマイ EGG を使用。 	国語
5 【グループ】 【個人】	推敲する <ul style="list-style-type: none"> 見出し・写真・イラストなどを取り入れてまとめる。 現時点で意見交流し、アドバイスをもらう。 友の意見を参考にさらに新聞づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 友の意見も参考に、文章とレイアウトの両面から伝わりやすい新聞づくりについて相互評価する。 自分の新聞を直すことで、紙面を工夫し、表現力を広げる。 	国語
6 【グループ】 【全体】	発表・振り返り <ul style="list-style-type: none"> 完成した新聞を読み合う。 グループで感想をもらったり、質問し合ったりする。 ふり返りカードに記入し、単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の意見を受けて自分の表現を見直し、振り返りを通じて学びを深める。 	国語

4 本時の主眼（6時間中3時間目）

職業体験を終えた生徒たちが、取材したことを魅力的に（わかりやすく・正しく・くわしく）新聞にまとめるための工夫について考える場面で、記事の構成・表現・視覚的工夫に着目して複数の新聞を読み比べることで、新聞の特徴や良さを実感し、制作のためのイメージがもてる。

5 本時の展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	支援・評価	時間
導入	1 これまでの学習を振り返り、今日の課題を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> 新聞でまとめるんだっただな。 新聞ってどうやって作るんだろう。 新聞で大事なことは「わかりやすく・正しく・くわしく」だったな。 	<ul style="list-style-type: none"> 新聞社の方から教わったことをもとに新聞を作ることを確認する。 	5
【学習問題】「取材」したことを魅力的に新聞にまとめるためにはどんな工夫が必要だろう。				
	2 複数の新聞（3社）の同じ話題の記事を見比べる。	<ul style="list-style-type: none"> 見出しの言葉が違うな。 写真も違うね。 これって中身も違うのかな？ 魅力的ということは、分かりやすさで見比べてみるといいかも。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の新聞を見比べられることを伝える。 「どの新聞も同じ話を扱ってるけど…雰囲気ちがう？」「読んでみたくなるのはどれ？」などの問いかけをする。 	3
【学習課題】新聞に隠されている「工夫」を発見し、新聞づくりに活かせることを考えよう。				

展 開	3 グループで新聞を読み取り、工夫について話し合いをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・書きたい内容によって見出しが変わるな。 ・焦点を当てる部分が違うから、同じ記事でも印象が違うね。 ・取材したときにやった「だれが」「いつ」「どこで」「何を」「なぜ」「どのように」がどこの新聞社にも入っているね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3人1組でグループを組み、グループごと好きな記事を選んで話し合う。 ・グループごとに模造紙に、気づきや比べた内容を視覚化して記入する。 ・困っている場合には、「構成」「視覚的工夫」「内容」「表現」等の視点リスト表を渡し、活動がスムーズに進むよう支援する。 	30
	4 話し合ったことを共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・報道する視点が違うことが分かった。伝えたいことは何かを大切にしたい方がいと思う。 ・どの新聞社にも共通して写真が入っていた。わかりやすくなるための手立てだと思ふ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各班のまとめを自由に見合う。 ・自分たちが見つけれなかった工夫はあるか、参考になるものはあるかという視点を大切に声掛けする。 	5
終 末	5 新聞社の工夫をもとに、自分の新聞に活かしたいことを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・取材時の5W1Hは記事に入れていきたい。 ・写真を入れて効果的に書きたい。 ・「大変さ」を掘り下げて聞いてきたので、そこが伝わるような見出しを考えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の振り返りカードに記入させる。 ・時間があれば近くの人と意見共有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>記事の構成・表現の工夫を発見し、職業体験新聞制作のためのイメージを具体的にもてたか。 (グループ活動の様子や個人の振り返りなど)</p> </div>	7

○生徒の様子

【職場体験学習前】

NIE出前授業として、職場体験に向けた取材の仕方を教わった際には、生徒Aは、「質問をするだけではなく、返ってきた答えに対して、さらに深める質問が必要だ」ということに気づき、取材シートに深めるための質問を加える様子が見られた。また、どの順番で聞いていけばより深くまで知ることができるかを考え、質問する順番に矢印等を用いて視覚化している姿があった。



【職場体験学習後】

「職業体験新聞」を作成するに当たって、体験先の職場にも送付することを伝え、聞いてきたことを正確に伝えることや、相手意識をもって作成することを意識させた。生徒たちは、

「失礼のないように書きたい」「思いが伝わるように丁寧に書きたい」と意気込んでいた。新聞社ごとの記事の比較では、見出しの言葉の選び方が違うことに気づき、どのような見出しの言葉にすれば目に留まるのかということについて考えを深める姿があった。生徒Aは、この授業の学習プリント内に、「お店の工夫は絶対に入れたいから、大きく見出しにして読む人に伝わるようにしたい」と記述し、記事にある工夫の中から、自分の職業新聞に活かそうとする様子があった。



2025年(令和7年)9月26日 金曜日

(6) 1年間取り組んだ成果と課題

○新聞コーナーや授業で新聞を活用する機会を多く設けられた1年だったので、生徒に「新聞」を身近に感じてもらうことができた。引き続き、新聞を活用した授業や学校づくりについて考えていきたい。

△本年度は国語科での授業であったが、様々な教科や教育活動での活用場面を考えていきたい。誰もが、手軽に新聞を教育に活用できるように取り組んでいきたい。

<p>様々な工夫の中でもシ ェルフリーデザインで は、資料の順番を番号 通りに戻して探しやすい くしたり、その際に背 表紙と棚の手前まで出 すことで見やすくした りするなど利用しやす くなる工夫が見られま した。そして体験しに いった時はAST前 機の数を普段より多く して、このように小さ な工夫の積み重ねが利 用者が快適に利用できる ことにつながっている のだと実感しました。</p>	<p>信州大学附属図書館中央図書館</p> <p>七月二十日(十三日)に、私は信州大学附属図書館中央図書館へ職場体験に行きました。</p> <p>私が普段利用している趣味などのために利用する図書館とは違い、研究などのために利用することが主な目的であるとおっしゃっていました。一日の利用者数は約千五百人で多いときは約千人、休日には約八百人が利用しているそうです。中央図書館は、すべての学科の人が利用するため、蔵書数は研究室にあるものも含め約五十三万冊あるとのことでした。</p>	<p>図書館新聞</p>
<p>利用者を第一に</p> <p>とはなんですか？という質問に対し担当の方は「勉強しやすい環境を作りそれを、活用してもらってください。」とおっしゃっていました。この答えから利用者を取り組んでいることが分かります。私自身が体験した仕事内容の中に、POPを作り</p>	<p>図書館で仕事をしたいという方が増えるにつれて、図書館の役割は変わっていくのではないかと感じました。</p> <p>私が今回職場体験をさせていただいた図書館では新しい研究結果が出るとそれに伴って新しい資料が入ってきます。そのため限られた棚には収まりきれない資料も数多くあるとのことでした。そこで図書館で働く人たちは資料の移動作業を行い、人の目につかなくても裏から図書館を支えているのです。こういった仕事も見方を変えれば利用者が見たい情報を入手するための工夫なのではないでしょうか。</p>	<p>目的以外の興味を引き出すなど大きな工夫から小さな工夫まで利用者が利用しやすくなるための様々な工夫が施されています。</p>

